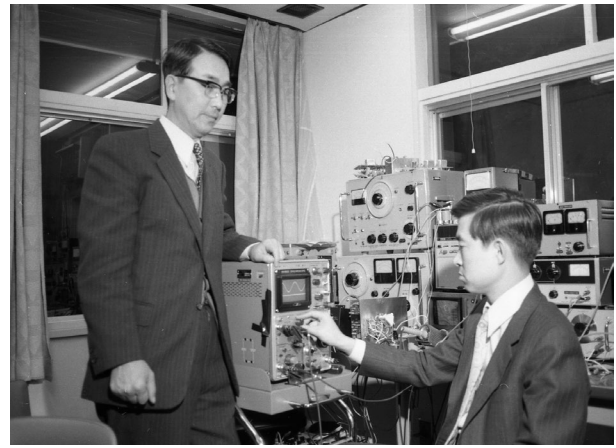


■アキュフェーズの生い立ち

アキュフェーズは、春日仲一・二郎兄弟が、トリオ(株)：現・(株)JVCケンウッドを退社して1972年に創業、妥協を余儀なくされる大量生産ではなく、市場は小さくても、音にこだわり、自分たちの理想とするオーディオ機器を創りたいという思想を共有する同志が集まり、その設計・生産・販売・サービスを可能とする、孤高のオーディオ専門メーカーを目指して創立されました。

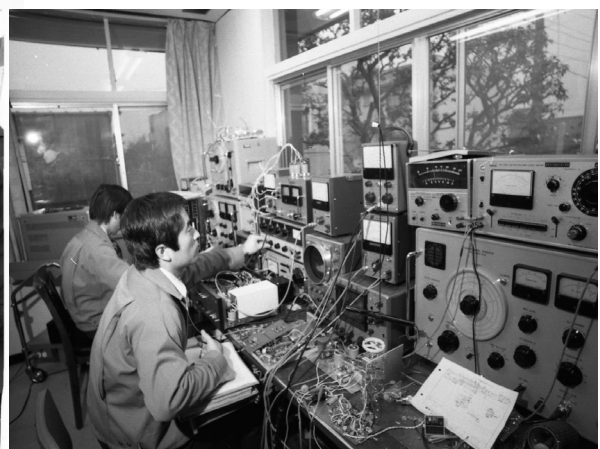


創業当時のメンバー



春日二郎と現：齋藤相談役

製品を開発して売り出すまでの一年間は、東京都大田区にあった春日二郎の自宅を事務所として設計を始めました。当時日本は、ステレオで音楽を楽しむ文化が一般的となり、オーディオ産業は盛んでしたが、大量生産の普及製品止まり、ハイエンド製品に特化しているメーカーはほとんど無く、その中で、いつかは世界で一流と呼ばれる高級オーディオ製品を創りたい…という夢の実現のためにスタートしたのがアキュフェーズです。



創業当時（春日二郎宅）での設計風景

■ケンソニックからアキュフェーズへ

最初の社名：ケンソニック株式会社、製品のブランド名：アキュフェーズ、Accuphase でスタートし、創業 10 周年目の 1982 年から『アキュフェーズ株式会社』に統一しました。



Accuphase のアキュ (Accu) は Accurate 《正確な、的確な》から、フェーズはオーディオ技術に重要な phase 《位相》の 2 語を合わせて、オーディオの奥義を極めたい…そんな意思を表す造語ですが、当初は知名度も全く無く、なじみのない発音ということもあり、海外メーカーですか?…とずいぶん間違われました。

創業翌年 1973 年 6 月に、現在（横浜市青葉区）の社屋が完成して移転、同年 8 月から創業第一作となる、待望のセパレート・アンプ C-200/P-300、続いて AM/FM チューナー T-100 の生産を開始しました。



創業モデル C-200/P-300/T-100

最高の部品と革新的回路を採用し、妥協のない創りで、画期的な性能と理想の音を実現しましたが、C-200：16万5000円、P-300：23万円、そしてT-100：15万5000円と当時としては破格の売価になってしまいました…。



1973年：『日本コンポグラフィ』に於いてP-300金賞受賞
にもかかわらず、その年の秋、『日本コンポグラフィ』（ラジオ技術社主催）に於いて、P-300が『金賞受賞』など、その音の良さと完成度の高さで市場の圧倒的支持を得ることに成功、アキュフェーズ飛躍の原動力となり、同時に日本に於けるハイエンド・オーディオの幕開けとなりました。



横浜市青葉区の本社全景

■徹底した品質の追求

創業以来、真の高級オーディオ製品を創るという高い理想を掲げて、オーディオ機器で世界の一流ブランドを目指し、『徹底して品質を追及』する真摯な姿勢で、高価になりますが、流通の完全なトレーサビリティとユーザーを失望させない独自の長期サービス体制を確立し、高音質・高性能の製品を長期間使用して頂ける方向を目指してきました。



創業から 1990 年位までの初期製品群

アキュフェーズ製品はこのような設計理念から生まれ、国内はもとより海外のオーディオ・ファイルからも高い評価と絶大な信頼をいただき、創立翌年の 3 機種 (C-200/P-300/T-100) から始まり、約 50 年間での発売機種数は、実に 250 機種余り (年平均 5 機種発売) になります。



受賞した賞状・トロフィー類



今まで製造した製品を保管

